



医療の質と安全に関する講演会のご紹介 — Special Lecture on Quality and Safety in Healthcare —

平成23年11月21日、“*BMJ Quality & Safety*”誌編集長Dr. Kaveh G. Shojania(カヴェー・G・ショジャーニア)先生を講師に、本院高度救命救急センター長 嶋津岳士先生及び集中治療部副部長 藤野裕士先生を特別コメンテーターにお迎えし、医療の質と安全に関する院内学術講演会を開催しました。

【第I部】



講師: Kaveh G. Shojania, MD, PhD
BMJ Quality & Safety誌 編集長
トロント大学患者安全センター センター長
サニーブルック・ヘルスサイエンスセンター 准教授
座長・通訳: 高橋りょう子(中央クオリティマネジメント部)

Key steps in designing and reporting quality improvement interventions

「医療の質を改善するための介入計画と学術報告に求められる重要なステップ」

従来の研究論文と医療の質改善の論文の相違点と共通点

従来の研究論文

扱う問題: 定義が明確
条件: コントロールする
目標: 一般化



V S

質改善の論文

扱う問題: ごちゃごちゃ
条件(文脈): 重視する
目標: ローカルな影響



特徴

・結果の正しさを示す
・再現可能

どちらも
詳細の記述が
必要

特徴

・介入の成功を示す
・導入の可否が判断可能

医療の質改善の取り組みを論文化するときの4つのポイント

介入: 問題に適した介入と評価方法の詳細及び導入方法について記述する
方法: 評価方法の基になるセオリーを明示する(なぜ介入が成功すると考えられるか)
結果: 成功を測る指標と共に介入がどの程度うまく導入されたかについても記述する
文脈: プロジェクトに関連する文脈(外部規則、病院のインフラ等)を記述する

Q：国によって研究の関心が集まる点は異なると思います。ローカルな関心を集めているトピックに関する投稿と全世界が関心のあるトピックでは、どちらを優先して掲載されますか？

A：すでに発表されている内容や外国で行われた研究を国内で追認するような場合は、国内の雑誌への投稿が適切であると思います。ただし、その研究が非常に緻密に行われていることを示す論文の場合には、このタイプの研究のモデルであるという意味で、国際誌に掲載することがあります。研究を論文発表するためには、ピアレビューのプロセスがどのようなアウトカムに至るのかをプロジェクトの開始時に考える必要があります。アウトカムがよくないと予想される場合には、掲載まで“闘う”覚悟を決めるか、プロジェクトを変更するかのどちらかが必要です。

【第Ⅱ部】

本院医師2名によるプレゼンテーションとShojania先生への質問に対し、Shojania先生からコメントを頂きました。



Helicopter Emergency Medical Services in Osaka Prefecture (Osaka-HEMS)



高度救命救急センター 助教
中川雄公先生

大阪府下のドクター・ヘリ搬送について、2008年1月のシステム立ち上げからの搬送件数、所要時間、介入内容の紹介や搬送症例の提示などをしていただきました。

Q：ローカルな経験について普遍的な有効性に関する研究計画を立てるためのアドバイスをお願いします。

A：有効性について述べるためには、“何と何を比較して有効なのか” “なぜ有効性を示したいのか” をプロジェクトの開始時から考える必要があります。このプロジェクトは、ケーススタディに適していると考えますが、このプロジェクトについて伝えたいことを正しく表すように結果を記載する必要があります。つまり、読者が何を知りたいかを考え、それらの要素を十分描写することにより、読者がプロジェクトの必要性を直感的に理解できるようにすることが大事です。

In-hospital emergency system in Osaka University Hospital: The CPR call system



高度救命救急センター 特任助教授
入澤太郎先生

本院のCPRコールシステムについて、2003年から2009年までの心肺停止症例データをもとに、発生頻度や対応時間、介入内容について紹介していただきました。

Q：サンプルサイズの小さい研究を、論文化する上でのアドバイスをお願いします。

A：論文の目的が何かを考えましょう。アウトカムは何と比較するか？比較対象がなければ、有効性については述べることはできません。対応時間短縮の取り組みやコールで必要となった介入等をテーマに据える必要があります。サンプルサイズの小さい研究では、一つ一つのデータを注意深く見てテーマを決めましょう。

新入部員の紹介